



広野ドキュメンタリー映画初公開
(11日 公民館)



オープニングセッション 地域復興におけるメディア活用
(11日 公民館)



呈茶席
(11日 公民館)



浜通り地域の潜在能力を語る
(11日 公民館)



広野町の戊辰戦争
(常設 公民館)



広野火力発電所・IGCC紹介
(常設 公民館)



広野町へのリクエスト
(常設 公民館)



東京オリンピック スポーツ報道写真展1964
(常設 公民館)



童謡のまち 広野
(12日 公民館)



廃炉について語り合う
(12日 公民館)



第5回 国際フォーラム 「被災地」から「復興知」へ



クロージングで「被災地」から「復興知」へ 発信メッセージを発表

10月11日（木）から14日（日）にかけて、～「被災地」から「復興知」へ～と銘打ち、第5回目となる国際フォーラムを開催しました。

被災から7年が経ち、復興に至る過程で私たちが失い、培い、獲得した社会的かつ自然科学的英知、知識、知恵、経験値から出来上がった「復興知」こそが時代に伝えるべき価値であると考え、本年は、価値を伝える広域的な連携と効果的な発言手段（映画、音楽、小説、演劇、アニメなど）に焦点を合わせて、関係団体・学校機関等を巻き込んで話し合いました。

オープニングでは、福島復興局次長 實國慎一様、原子力災害現地対策本部副本部長 由良英雄様をはじめ、多くの方々にご臨席いただきました。

皆さまの様々なご協力・ご参加をいただき、誠にありがとうございました。

フォーラムの開催を通して、地域に根差す豊かな伝統と文化に基づく知恵を内在する可能性に富んだ

地域であることを確認できたほか、地域のこれからの展望するためには、まずふるさと広野町を大切にすることが重要であると再認識することができました。

地域での連携を視野に入れ、常に何を伝えていくべきかを模索しながら、継続的に被災地からの発信に今後も努めていきます。

当フォーラムの詳しい内容については、今後報告書を作成するとともに、町ホームページへ掲載いたします。

- 主催：広野町
- 共催：学校法人昌平塾 東日本国際大学/学校法人 熊本学園大学/株式会社Jヴィレッジ
- 後援：復興庁福島復興局/福島県/双葉地方町村会/原子力損害賠償・廃炉等支援機構/一般社団法人日本童謡協会
- 協力：株式会社福島ガイナ/書店フルハウス

